

新型コロナウイルス感染症蔓延予防対策における競技に関する確認事項

【別紙3】で山梨県空手道連盟の新型コロナウイルス感染症予防の申し合わせ事項を添付しました。空手専門部としては、中体連と県連の大会が同日に行われることが多いため、中体連の新型コロナウイルス感染拡大防止対策を軸にしながら、県連の新型コロナウイルス感染症予防対策に準じていきたいと思っております。

①全体に関わって

- ・大会関係者（選手・役員・審判）入館時に体温チェックを受ける。
 - ・当日、以下の項目に当てはまるものがあれば、入館・参加を見合わせる。
- 発熱、咳、咽頭痛などの症状がある場合
- 同居家族や身近な知人に感染が疑われている場合
- 過去14日以内に政府からの入国制限、入国後の観察期間を必要とされている国、地域等への渡航又は当該在住者との濃厚接触がある場合
- ・開閉会式・表彰式等を行わない。
 - ・開放可能な出入口扉及び窓は、常時開放し、良好な換気状態を保つ。
 - ・アリーナ出入口、各コート等複数個所に消毒液を配置。各自こまめな手洗い・手指の消毒を行う。
 - ・競技中の選手以外は、全員マスク着用を原則とする。
 - ・ゴミ袋を持参し、鼻水、唾液がついたごみやマスク等のゴミは必ず持ち帰る。
 - ・大会終了後2週間以内に新型コロナウイルス感染症を発症した場合は、大会主催者に対し速やかに報告すること ※報告先個人→空手専門部専門委員長
 - ・受付・待機中・競技中など、大会中は常に、会場内でのソーシャルディスタンスを確保する。
 - ・他の施設利用者との接触を極力避ける。（出入口の指定等）

②受付に関わって

- ・入館時に発熱（37.5度以上あるいは平熱より1度以上高い）があった選手は、棄権とする。
- ・受付時に、「健康管理チェックシート【別紙2】」を提出する。※提出がない選手は、棄権とする。
- ・小瀬武道館を利用する場合は、選手・顧問は2階玄関、役員・審判員は1階玄関を使用すること。

③選手に関わって

- ・競技が終わった選手から順次退館、帰宅する。応援等で残ることはしない。
- ・選手の荷物は観客席に置く。
- ・マスク着用が原則。着用しない場合は選手同士の距離は2m以上確保する。
- ・競技中の選手以外はマスク着用を原則とする。
- ・選手は競技中のみ、マスクをはずしてもよい。（マスクを入れるためのビニール袋やケースを持参する）
- ・待機中は必ずマスク着用。マスク着用時も他の競技者との距離は1m以上空ける。
- ・形・組手競技ともに、マイ帯の使用を原則とする。しかし、申し込みの段階で事前に使用本数を確認し、小中体連空手専門部から貸与できるように準備しておく。
- ・競技に関わっては、(公財)全日本空手道連盟感染拡大防止ガイドライン【大会用】(2020.11.16版)及び本大会申し合わせ事項に基づくものとする。

・観客席での飲食は可能だが、食事中が一番感染リスクが高いため、向き合って食べることなどないように注意する。

・防具・タオル等の使いまわし、飲み物の回し飲みは禁止とする。

・練習時はマスクまたは、メンホーを着用すること。

・競技中及びアップ場所での私語は控えること。※指示に従わない場合、退場を余儀なくされることもあります。

④形競技

・形名の呼称と、競技中の気合い発声は可とする。

・競技方法は要項記載の通りとする。

④組手競技

・防具の共有、貸し借りは絶対にしない。

・メンホーをつけているときのみ、マスクを外してもよい。

・接触・飛沫感染予防、熱中症対策を考慮して、メンホーにシールドを装着または透明テープを貼る。

・競技中の気合い発声は可とする。

・試合前後に防具の消毒を行う。手指に加え、足裏の消毒も行う。各コートに消毒液・除菌シート(ウェットティッシュ)を用意しておくが、各自で持参も可。

・競技方法は要項の記載通りとする。

⑤審判・競技役員について

・審判は主審を含め全員フェイスシールド及びマスク着用を原則とする。

・選手との距離は1 m以上を保つ。

・審判用フラッグは、1人1組用意し、大会中はフラッグの共有はしない。

・監査は電子ホイッスルを使用する。

・タイマーなど共有を避けられないものはこまめに消毒する。あるいはビニール手袋を着用する。

・各コートの複数消毒液を配置する。